

本文

Q-1. (2) 「un par de veces al año」という表現がありますが、どうして「al」 año となるのですか？「一年に」なら、英語では few times a year などと言うので、uno año という言い方はありませんか？

A-1. al, a la は「...につき」という意味で使われます。また、「...につき」は、por un año「一年で」という言い方もできます。たしかに un par de veces al año は英語に直訳すると a couple of times to the year となり、英語としてはおかしくなります。英語とスペイン語では、場合によっては一字一句同じ表現になることもありますが、このように直訳すると表現の細部が異なることもあるのです。

Q-2. (2)の un par de veces al año は voy の目的語ですか？

A-2. voy (ir)は自動詞なので、目的語はありません。un par de veces al año は名詞句ですが、この文の中では副詞のように働いています。時や頻度を示す名詞句は、前置詞がなくともそのままの形で副詞になることがあります。例 todos los días (毎日), tres veces (三回)

Q-3. (4) 1 課ではスペインがヨーロッパの南にあるのを言うとき en el sur de Europa というのに、2 課のバレンシアがイベリア半島の東にある、という所では al este de la Península Ibérica となっていて、en と a は使い分けているんですか？

A-3. その通り en と a を使い分けています。前置詞 en は、平面的 / 立体的な配置のなかでの位置づけを表わすのに対し、前置詞 a は、線的な移動の方向を表わします。したがって 1 課の en el sur de Europa は「ヨーロッパの南部に」となります。2 課では友子とフアンの住む Salamanca を基点として、イベリア半島の東の方角に Valencia がある、という意味です。

Q-4. (6) 本文では la huerta となっているが、las huertas にしなくてよいのだろうか？

A-4. 確かに現実には huerta は複数あるはずですが、もちろんここで las huertas というのも可能です。そのときは、実際に複数の huerta をイメージしています。一方、本文のように la huerta とすると、一般の huerta、全体としての huerta がイメージされます。こういうのを学者によっては「代表単数」などということもあります。

Q-5. (6) スペイン語の cantidad と英語の quantity とは、語源が同じとのことですが、ずいぶん形が違いますか？

A-5. 英語の語彙には、フランス語経由でラテン語起源の単語がたくさん取り入れられています。こうした単語は、英語とスペイン語の間でよく似た音や綴りになりますが、ふたつの言語の歴史的变化を反映してときには形が大きく変わることがあります。ラテン語の qua はスペイン語では ca に変化しました。英語では qua がそのまま残っています。ラテン語の語尾 tate(m) はスペイン語の dad に変化しました、英語では ty に変化したのです。

Q-6. (11)はlas Fallas はどうして固有名詞なのにlas がつくのですか？ Fallas は固有名詞でもs が付くのですか？

A-6. Falla はラテン語の facula「たいまつ」に由来する普通名詞で、現代スペイン語では「(バレンシアのサンホセ祭りで焼かれる)張り子の人形」を指します。それが Valencia 独特のお祭りの名前として大文字で書かれます。このように大文字で書かれていても普通名詞に由来するものは定冠詞がつきます。複数形になる理由も普通名詞だからです。

定冠詞がつく固有名詞はたくさんあります。“la Edad Media”（中世），“el siglo XXI (veintiuno)”，“la Península Ibérica”，“los Estados Unidos”などがそれです。

Q-7. (12)の toda la ciudad と todas las ciudades の違いは？

A-7. ciudad の複数形は ciudades です。toda la ciudad は「ひとつの都市全体」を意味し、todas las ciudades は「(複数ある)都市のすべて」を意味します。

Q-8. (12) どうしてスペインでは人形を燃やす祭りがあるのでしょうか？

A-8. まず、教科書では人形と書いてありますが、実際にはさまざまな人物、動物、建物、物体を形象したフィギュア/オブジェです。それらは、たんに美しい、物珍しいだけでなく、社会諷刺の意味をこめたものが数多くあります。こうした祭りが、かつては民衆の社会批判精神の表現だったことの名残です。一方、季節の変わり目の祭りの夜に、何かを燃やしたり、花火を上げたり、音楽や騒音を出して夜更かしするという習慣は、多くの文化に見られることです。温帯地方では、とくに冬から春への変わり目にこのような祭りが行なわれることが多いようです。ある学者によれば、これは冬の間には衰えた宇宙と大地のエネルギーを火や音の力で活性化させ、農畜産物の豊作を祈念する行為だということです。

Q-9. (14)の los muñecos arden junto con...はどうして los muñecos arden juntos con...ではないのですか？

A-9. junto 「...といっしょに」は副詞で使われるときは変化しません。文 14 の場合は動詞の arden を修飾する副詞として使われています。

junto は形容詞（主格補語）としても使われます。その例は、2 課西訳 3 にあります。

Comemos juntas.

このように形容詞として使われるときは、それがかかる名詞（この例文の場合、明示されていない主語 nosotras）に一致して性数が変化します。ここでは juntas とあることで、主語（話者と聞き手）は女性であることがわかります。

Q-10. (15)の durante. 1 課に出て来た mientras と 2 課に出て来た durante は同じ意味のように見えますが、使い分けはどのようにすればよいのですか？

A-10. どちらも「...(の)間」と訳されますが、mientras は接続詞で、次に節が来ます。durante は前置詞で次には名詞（句）が来ます。つまり、英語でいえば while と during の違いです。

文法

1. 現在・不規則変化

Q-1. ir の不規則が v~で、ir と何の関係もないように見えますが...

A-1. voy, vas, va...はラテン語の他の動詞（vadere「川を渡る」）を補充したものです。それで形がまったく違うことになりました。中世のスペイン語ではたとえば現代スペイン語の vamos の形ではなく imos という形も使われていました。

Q-2. 現在形の不規則活用は、どうして 1 人称単数の所ばかり不規則な活用なんですか。

A-2. 「g」の動詞は、ER 動詞と IR 動詞だけで、AR 動詞がないことに注目してください。ER, IR 動詞の活用語尾を見ると、1 人称単数形だけが後母音(o)となり、残りは全部、前母音(e,

i)になります。このように後に続く母音の性質が条件となって、音韻が一定の変化をしたのです。たとえば, hago は-cが2つの母音に囲まれることになりますね。そのために有声化していますが, 他の位置では haces, hace, ...のように次の母音が前母音(e)なので, 「c」の音が口の前の方で発音する英語の th のような音に変化しました。hago は次が後母音の「o」なので, そのような変化はありませんでした。decir-digo についても同じことが言えます。conocer-conozco は元の形が conozcer のような発音でした。これも前母音(e)の前では容易にconocer になりますが, [o]の場合は例外で「z」が残り, conozco という形が保たれています。他の動詞については, go 型の動詞と同じように変化する類推作用が働いたようです。動詞の活用の全体については,

<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/gakusyu/katuyo.pdf>
の「スペイン語の動詞活用」を参考にしてください。

Q-3. スペイン語には助動詞がないのですか？

A-3. querer, poder, ir a などが助動詞の部類に入ります。これらの動詞には次に不定詞が続きます。たとえば, Vamos a ver. 私たちは見ましょう 「どれどれ」「どうだろう」(英語の Let's see に相当する慣用句)

なお, このとき, 不定詞の目的語は助動詞の前に置くことができます。

例 ¿Me lo puedes prestar?

(¿Puedes prestármelo?のように不定詞の後ろに直接つけても可。アクセント符号が加わることに注意)

Q-4. saber と conocer の意味の違いがよくわかりません。

A-4. saber は基本的に知識として知っていることを示します。一方, conocer は経験によって知っていることを示します。目的語が場所ならば「行ったことがある」, 人ならば「会ったことがある」, 食べ物(飲み物)ならば「食べた(飲んだ)ことがある」と訳した方がいい場合があります。例 ¿Conoce usted al señor Bush? – Sé quién es, pero no lo conozco. // あなたはブッシュさんをご存知ですか。誰かは知っていますが, 会ったことはありません。

Q-5. conocer と saber。que がつくときは必ず saber が使われますか？

A-5. conocer は経験して知っていることを示し, saber は知識として知っていることを示します。que 節がつづくときは saber を使います。

Q-6. se と sé の違いは強く読むか弱く読むかの違いですか？

A-6. 発音に関してはそうなります。機能については, se は代名詞, sé はこの課で見られるように動詞の活用形という違いがあります。

Q-7. どうしてスペイン語では主語を省略するようになり, 形容詞や動詞を変化させるようになったのですか。

A-7. 言語の歴史を振り返ると実は主語を並記せず, そのかわり形容詞や動詞が変化するタイプの方がヨーロッパの言語の根源に近いことがわかります。ところが, たとえば英語では主語を動詞に並記するようになり, また形容詞・動詞の変化がなくなったりしました。このように言語は一定のタイプに固定されるものではなく, 変遷や変異をも含めて相対的に見るほうがよいと思います。スペイン語を学習することで私たちはいろいろな視点や考え方も学ぶことができます。

Q-8. -cer, -ner の2音節の動詞は go 型になりやすい？

A-8. -cer の動詞はその前に母音があれば zc になりますが, hacer と cocer が例外です(それぞれ hago, cuezo となる)。また, -ner の動詞は,ほとんどがたとえば contener, componer などのように tener と poner の合成語になりますから,それらも同じように contengo, compongo というように変化します。これにも cerner という例外があります(ciernoとなる)。

お気づきのように単語は語尾から調べてみるといろいろな発見があります。そのような配列に資料を次の場所に作りましたので,参考にしてください。

<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/kenkyu/gyakubiki/index.php>

「逆引きスペイン語辞典」です。

Q-9. huís にアクセント記号がつくのはなぜですか？

A-9. huís は本来ならば1音節語であり,しかも ui は閉母音の連続ですからアクセントは後の母音[i]にあるはずですが,そこで,規則からはアクセント記号は不要なはずですが,実際にスペインの言語アカデミー(1999)はアクセントのない形を認めています。一方,huís というように,母音を分けて発音することもあるので,その場合はアクセントをつけてもよい,とも言っています。どちらのほうが多いのかはあまり書かれた資料の頻度がなくて正確には言えないのですが,16世紀以降の近代スペイン語の資料を調べてみるとアクセント記号をつける方が断然多いようです。日本のスペイン語教育の辞書や参考書では従来から huís の形を載せています。実は私(上田)はアクセントを外してもよいのではないかと思っています。

Q-10. zc の動詞と g の動詞はどうやって見分けたら良いのですか?これも単語毎に覚えるしかありませんか?

A-10. zc の動詞は「母音+cer, cir」という動詞です。ただし,hacer は除きます。hacer などの g の動詞は教科書に示したものが全部ですが,これに接頭辞がついた動詞も同じように変化します。たとえば,componer は poner と同じように変化します。

Q-11. 不規則動詞はこれで全部ですか?

A-11. 基本的に現在形の代表形はこれで全部です。語根母音変化動詞と zc の動詞,および uir で終わる動詞は他にもあります。

Q-12. 不規則動詞の数は全部で何個くらいあるのですか?

A-12. 試算では 800 位だと思います。しかし,これらは一定の規則に従っていますから,初めは代表形をしっかり覚えましょう。次を参考にしてください。

<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/gakusyu/hukisoku.txt>

「不規則動詞対応表」です。

2. 形容詞

Q-13. un estudiante español は「スペイン語を勉強する学生」になるのですか?それとも「スペイン人の学生」となるのですか?どのようにして書き分けたら良いのでしょうか?

A-13. un estudiante español は「スペイン人の学生」です。「スペイン語の(を勉強する)学生」ならば un estudiante del español となります。

3. 所有形容詞

Q-14. tu と tú の違いは？

A-14. tu は所有形容詞で、tú は主語代名詞です。形が同じになってしまうのでアクセント記号で区別します。一方、mi は主語代名詞 yo とはまったく違う形なのでアクセント記号をつけません。しかし、前置詞の後の代名詞 mí は所有形容詞と同じ形になるので、アクセント記号をつけて区別します。すこしややこしいようですが、実はとても合理的なのです。

Q-15. su foto は「彼女の（が写っている）写真」と「彼女の（が所有している）写真」の両方の意味がありますか。

A-15. su foto は、「彼女の（が写っている）写真」と「彼女の（が所有している）写真」の両方の意味にとれます。たしかに、「所有」にはこまかく見るといろいろな意味がありますが、多くの場合は文脈、状況、常識などで判断されます。

Q-16. 所有形容詞で女性形や複数形があるものとなないものがあるのはどうしてですか？

A-16. 複数形はすべてにあります。女性形がないのは mi, tu, su で、これは男女に共通して使われる形です。一般に形容詞は o で終わる男性形がないと、その女性形(a)がありません(azul, interesante など)。ただし冠詞や指示形容詞などは例外です。

Q-17. mi は英語の my と似ているけれど tu は英語の your と似ていないのはなぜだろう。

A-17. 英語の my, mine, me とスペイン語の mi, mío, me と同じ起源（インドヨーロッパ語）に遡ります。スペイン語の tú, te, ti, tu, tuyo は古い英語の thou（「汝」）と同じ起源に遡ります。この thou は、13世紀に本来複数の意味だけであった ye（後で you になった）が単数にも使われるようになったため、消えてしまいました。なお、スペイン語の yo「私」と英語の I はどちらもインドヨーロッパ語に推定される原形 eg に遡ります。

4. 存在の無人称動詞 haber

Q-18. 存在の haber は英語の There is...構文と同じと考えていいのでしょうか。

A-18. 同じ意味と考えてください。

Q-19. どうして「存在の hay」は単数も複数も同形なのですか？

A-19. hay は無人称なので、その後の名詞は目的語になります。そのため Hay un libro. Hay libros のように動詞の hay は活用変化しません。動詞の活用変化は主語に一致するからです。Hay の後の名詞が主語ではなく目的語であることは、それを代名詞にすると主語代名詞ではなく直接目的語の代名詞になることによってわかります。

¿Hay cerveza? -- Si, la hay.

現在形では hay という特別な形になりますが、過去形や未来形でも同じようにならず単数形が使われます。

Había libros interesantes.

Ayer hubo una boda en esta iglesia.

Mañana habrá una boda.

Q-20. hay と estar はどちらも「ある」と訳し、存在を表すことができるようですが、二つ

の意味の違いや使い分けはあるのでしょうか？あれば教えて下さい。

A-20. 英語と対応させるとわかりやすいと思います。Hay un libro en la mesa.は英訳するとThere is a book on the table.です。El libro está en la mesa.はThe book is on the table.となります。あるいは質問の文を考えても良いかもしれませんが、「机の上になにがありますか？」に対する答えが、Hay un libro...で、「本はどこにありますか？」の答えがEl libro está...となります。目の前の状況としては同じですが、発言者の側の発想が違います。

5 . 数詞

Q-21. 11 から 30 までは 1 語なのに、どうして 30 より大きい数字は y をはさんで 3 語にするのですか？ 英語も 11 から 19 までは 1 語で 21 からはハイフンを挟み、理由を求めるようなことではないような気もするのですが...

A-21. かつては、16, 17 など *diez y seis*, *diez y siete* と書いていたのです。20 台もそうです。*veinte y dos*, *veinte y ocho* という風に。十六世紀の古文書では、《*veinte y tres*》《*diez y nueve*》と書かれています。今でもお役所文書ではこのように書くことがあります。いずれにしても、かつては、16 から 29 までも《y》を挟んで書いていたのが、《e+y》《z+y》が融合して《*dieci...*》《*veinti...*》となったということだと思います。

その他

Q-22. スペイン語の語順はまったく自由ですか？

A-22. 平叙文ならば基本的に主語 + 動詞、疑問文ならば、動詞 + 主語になりますが、平叙文でも主語が後ろになることもあります。新しい情報として提示するときは、主語が後ろになります。

Q-23. 疑問詞を使った疑問文の語順は？

A-23. 疑問詞 + 動詞 + 主語が基本的な語順です。たとえば¿*Qué quiere hacer José?* (ホセは何をしたいのですか？) 主語がないときは次のようになります。¿*Qué quieres hacer?* (君は何がしたいの?)

Q-24. 疑問文に対して否定文で答えるときの語順は？

A-24. たとえば、¿*Tienes tiempo?* (君時間ある?) No, no tengo tiempo. (いいや、僕は時間がない) のように言います。最初の No で前の文を否定し、次の no が動詞 *tengo* を否定します。

練習

Q-1. 練習 1 (1) ¿*Adónde?*になぜアクセント記号がつくのですか？

A-1. 疑問詞にはアクセント記号がつきます。アクセントのない *adonde* は関係副詞を表わします。

Q-2. 練習 2 (4)では *mi amiga Susana* となっているのですが、なぜ前置なのですか？ 主観

的だからと捉えればいいのでしょうか？たとえば la amiga mía Susana とか Susana la amiga mía では不自然でしょうか？ またこれらは間違いですか。

A-2. la amiga mía Susana や Susana la amiga mía は文法的に見れば、間違いではありません。ただ、名詞を直接修飾する所有形容詞としてはふつうは前置形の mi を使います。「私の友人スサーナ」とふつうに言いたければ「mi amiga Susana」「Susana, mi amiga」と表現します。後置形の mía を使う場合は限られています。その主なものは、1. 名詞よりも所有者を強調したい場合、2. 名詞の前に不定冠詞、定冠詞、数詞、指示形容詞などがつく場合、です。従って、la amiga mía Susana というと「私の」をことさら強調したいか、あるいは話し手と聞き手が共通理解しているということを表す定冠詞（「その」「例の」「あの」といったニュアンス）を話しの流れでどうしても置きたいか、のどちらかだと思います。ですから、教科書22ページの文を例えば Di una vuelta con la amiga mía, Susana. と言い換えると、かなり特殊な意味合いを帯びてしまいます。

Q-3. 練習5(1)(p.23)についての質問です。ホームページの解答では Hay libros de español en la librería. となっていますが、Hay unos libros...のように不定冠詞はいらないのでしょうか？ よろしくお願ひします。

A-3. 練習問題の答えとしては Hay libros de español ... でも Hay unos libros de español...のどちらでもよいと思います。unos を入れると、「何冊かの」と数がある程度限定されます（たくさんはないが、いくらか置いてある）。何も入れないと、スペイン語の本が複数あるということには言っていますが、どれくらいかについては触れていません。なので、HP の練習問題の答えに Hay libros de español en la librería. をあげているのに、日本語訳が「その書店には何冊かのスペイン語の本があります。」となっているのはへんです。このスペイン語の文に対する日本語訳は「その書店にはスペイン語の本があります。」です。

その他

Q-1. 英語では s で始まる語が、なぜスペイン語では es になるのですか？

A-1. s + 閉鎖音(p, t, k)という連続はスペイン語では es + 閉鎖音(p, t, k)となります。たとえば, espía (spy), estudiar (study), esquí (ski)。これは, s のほうが閉鎖音よりも聞きとりやすいので, s だけで音節を作る傾向があったためです。音節を作るために本来なかった母音 e を語頭に付け加えました。

日本語では子音だけの発音ができないので子音の後に u を付け加えます。たとえば「スパイ」(supai)。この現象とよく似ています。

オランダの哲学者スピノザ Spinoza はスペインから追放されたユダヤ系の家の出身で、この姓はスペイン語の姓 Espinosa の e がとれた形です。

Q-2. bien (muy bien)と bueno (buenas playas)の違いは？

A-2. bien は「よく」という意味の副詞で, bueno は「よい」と言う意味の形容詞です。

Q-3. スペインは中世にイスラムに侵略されて文化的にかなり影響を受けていたと世界史の授業で習いましたが、言語のほうは影響を受けなかったんですか？

A-3. 単語のレベルではたくさんあります。日用品：alfombra (絨毯), almohada (まくら)。食べ物：aceite (油), azúcar (砂糖), arroz (米), naranja (オレンジ), café(コーヒー)。化学用語：álcali (アルカリ), alcohol (アルコール)。数学用語：cero (ゼロ), álgebra (代数),

などなど。単語を見ているだけで、どんなものがイスラム世界からイベリア半島に入ってきたかわかりますね。その多くは、スペインを経由して、他のヨーロッパ世界に伝わっていくことになります。スペイン語で、al で始まる単語の多くは、アラビア語起源です。スペイン語のなかに、アラビア語起源の言葉はだいたい 5,000 くらいあると言われてています。